

閉会挨拶

日本家庭科教育学会会長 赤塚朋子

日本家庭科教育学会会員の皆様、この3日間の2020年度大会(オンライン開催)はいかがでしたでしょうか。家庭科教育研究の世界に浸り、充実の時間を過ごしていただけましたでしょうか。今大会は、口頭発表20件、ポスター発表27件、課題研究報告5件、大会参加者183人と例年の大会より規模は縮小されましたが、研究領域は、家族・生活設計、食生活、衣生活、住生活、消費・環境、学習指導方法・カリキュラム、国際化、教員養成・教員研修と多岐にわたりました。研究発表をしてくださった会員の皆様には、大会を活気あるものにしてくださり、ありがとうございました。また、賛助会員の皆様には、出展のご参加をいただきありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。

口頭発表は、2度、3度と繰り返し再生することができるため、1度ではわからなかったことも自分なりに理解することができたり、チャットを通して質問と回答のやりとりができましたので、研究発表への参加がしやすいというメリットを感じました。

また、ポスター発表は、質疑の時間中、研究エッセンスのシャワーを浴び続けるという貴重な経験をしました。地区会代表の皆様には座長をお引き受けいただき、研究の神髄を引き出していただき、充実した時間となりました。感謝いたします。

第4次課題研究(2018~2020年)の最終報告会が先ほどありました。全体テーマ「未来を支える力と家庭科」、そこから2つのテーマ「家庭科の学力(資質・能力)の育成状況に関する調査・実証研究」、「家庭科教員養成に関する調査・実証研究」の研究成果が披露されました。校種や地域を越えて、協力・協働して研究する経験が得られる貴重な機会として、学会が研究力の向上を支援する制度は本学会の共有財産です。共同研究の醍醐味を味わうことができました。今後の研究への広がりも期待される報告ばかりでした。

この3日間、「やっぱり家庭科は面白い」が実感でした。今大会に参加された会員の皆様のお蔭です。ありがとうございました。

オンラインでの開催ということで、不安もたくさんありました。しかし、理事会に地区会の協力も得て、新しい形での研究発表会を実現することができました。特に運営に当たった事業担当理事たちの献身的な貢献が実現を可能にし、今後へと続く道しるべをつくりました。コロナ禍でも研究し続ける使命に希望を与えたと言っても過言ではありません。

不備な点につきましては、ひとえに会長の責任でございます。ご意見をお寄せいただき、今後に生かしていく所存です。アンケートにご協力の程、よろしく願いいたします。

来年度の大会の開催はどうなるのかと、ご心配をいただいていることと思います。今回の成果を引き継ぎ、会員の皆様の研究発表の場の保障を第一に検討を重ねておりますことをご報告申し上げます。2021年3月のセミナーもオンラインでの開催を予定しています。奮ってご参加ください。

12月の多忙な時期にご参加いただきましたこと重ねて御礼申し上げます。閉会のご挨拶とさせていただきます。

来年は良い年となりますよう祈念いたします。

ありがとうございました。